カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN
会報

≪2020年1月号（575号）≫

目　　次

報　告
・常任司教委員会 …… 1
・社会司教委員会 …… 3
・学校教育委員会…… 3
・難民移住移動者委員会 …… 4
・カリタスジャパン …… 7
・正義と平和協議会 …… 8
・日本キリスト教連合会 …… 9
・子どもと女性の権利擁護のためのデスク…… 10
・中央協議会事務局（総務）…… 11
公文書 …… 11

常任司教委員会

■11月定例常任司教委員会

日　時　　2019年11月7日（木）10：00－12：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室2
出席者　　委　員　　7人
　　事務局　　6人

報　告

1.　台風 19 号後の各教区の被害状況について
2019 年 10 月 12 日に日本に上陸した台風 19 号後の関係教区の被害状況が報告された。

2.　台風 19 号による日本での被害に対する韓国司教協議会からの見舞状と援助金について
10 月 17 日付書簡にて、韓国司教協議会から、台風 19 号による日本での被害に対する見舞状と援助金 5 万ドル送金の通知が届いた。援助金は被災関係教区の状況に応じて案分する。

3.　2020 年日韓司教交流会開催日程について
2020 年 11 月 3 日－20 日にアジア司教協議会連盟（FABC）総会が開催されることを受け、同年 11 月 10 日－12 日に開催予定であった第 25 回日韓司教交流会の日程変更を窓口の中野裕明司教より韓国司教協議会に問い合わせていたところ、韓国司教協議会秋季総会において、2020 年 10 月 27 日(火)－29 日(木)に確定した通知があった。

4.　2020 年度教区分担金算定額について
2019 年 7 月開催の第 1 回臨時司教総会の司教のみの会議において確定した、教区分担金算出方法に基づき算定した、2020 年度教区分担金が報告された。

審　議

1.　2019 年度第 2 回臨時司教総会内容確認について
12 月 12 日(木)－13 日(金)に開催予定の 2019 年度第 2 回臨時司教総会の内容を以下のとおり確認した。

2.　全国カトリック青年大会（Japan Youth Day）について
日本カトリック司教協議会公認団体の青年連絡協議会担当の梅村昌弘司教を通して、Japan Youth Day 実行委員会から提出された要望書について検討し、2020 年 5 月 2 日(土)－5 日(火)に富士箱根ランドで開催予定の全国カトリック青年大会について、日本カトリック司教協議会として全面的に協力を行うことを申し合わせた。

3.　PD（Placuit Deo）検討特別委員会の解散について
2018 年 3 月 1 日に教皇庁教理省は『カトリック教会の司教たちへの書簡 “Placuit Deo” ―キリスト教の救いのいくつかの側面について』を発表し、各国の司教協議会会長に対して、同書に掲載されているキリスト教信仰の重要ポイントを司祭や信徒が理解できるよう、働きかけてほしいと要請した。これを受けて設置された PD 検討特別委員会は、2019 年 2 月開催の「司教の集い」で司教たちの学びの機会を設け、その記録を小冊子として全国の司祭に提供し、設立当初の目的を達成したので、本常任司教委員会の期日をもって解散することを承認した。

4.　第五福竜丸の乗組員からの手紙について
第五福竜丸の乗組員である大石又七さんと市田真理さんの手紙を教皇に渡したいとの社会司教委員会からの要望について検討し、訪日前に教皇に内容を把握してほしいので、駐日教皇庁大使館を通して教皇庁に送付する。

5.　『今こそ原発の廃止を』英語版最終承認の提案について
『今こそ原発の廃止を－日本のカトリック教会の問いかけ－』英語版の最終承認を常任司教委員会に行ってほしいとの同編集員会からの提案を承認した。

6.　カトリック中央協議会経理規程などの改訂について
宗教法人の会計基準としてふさわしい基準となることと、現場が動きやすい体制にするために、以下の規程類の改定を提案通り承認した。
①経理規程、②会計基準、③購買規程

社会司教委員会

■第 32 回社会司教委員会事務局会議

日　時　　2019 年 11 月 6 日（水）16：00－18：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室 5
出席者　　5 人

報　告

1. 第 31 回社会司教委員会事務局会議議事録（案）を承認した。
2. 社会福音化推進部月例部会
   各委員会・デスクの課題と提案について
   社会福音化推進部の規約の一部見直しについて
3. エコロジー問題検討委員会の進捗状況について
4. 『今こそ原発の廃止を』（英語版）の進捗状況について
   本文の翻訳、校閲作業が一通り完了したので、常任司教委員会に報告する。

審　議

12 月 11 日社会司教委員会の議案について
・2020 年度社会司教委員会の計画について
・司牧者対象出前研修会アンケートの結果と今後の課題について

学校教育委員会

■第 171 回学校教育委員会

日　時　　2019 年 11 月 7 日（木）18：00－20：00
場　所　　幼きイエス会　ニコラ・バレ修道院　（東京・千代田区）
出席者　　11 人
欠席者　　1 人

報　告

学校連合会より、前回会合以降の活動状況が報告された。

審　議

1. 第 33 回「校長・理事長・総長管区長の集い（集い)」について
   2020 年 4 月 28 日－29 日、都市センターホテル（東京・千代田区）で開催予定の第 33 回「集い」の講師について検討した。本会合で挙げられた講師候補者に委員から打診し、その後正式依頼する。
2. 今後の活動について
   今後の活動について意見交換を行った。

次回日程　2019 年 12 月 5 日（木）17:00－19:00　幼きイエス会　ニコラ・バレ修道院

難民移住移動者委員会

■2019 年度スペイン語圏ラテンアメリカ人司牧者の集い（APALA）

日　時　　2019 年 9 月 29 日（日）10：00－17：00
場　所　　サクラファミリア（大阪市）
出席者　　36 人

テーマ「多国籍共同体を築くため、新しい課題と困難を識別する」

内　容
本年の集いは、APALA の組織基盤の構築を目的として開催された。はじめに各教区からラテンアメリカ人コミュニティの現状が報告された。続いて、アナマリア・ゴンザレス修道女がこれまでの APALA の歩みを説明し、その後カルロス・ムニジャ師（スペイン外国宣教会）による「移住者の霊性：イエスとの個人的な出会い」、山野内倫昭司教による「成長する共同体：母国の価値観と日本文化とのアイデンティティのインテグレーション」の講話があった。イグナシオ・マルティネス社会福音化推進部長が、APALA と難民移住移動者委員会の関係を説明し、それぞれの組織の立場や目的を明確にした。最後に APALA の体制面、コミュニケーション面の具体的な課題が提示され、今後取り組むべき事項を参加者全体で確認し、閉会のミサをささげて終了した。

■第 9 回事務局会議

日　時　　2019 年 10 月 3 日（木）15：00－17：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室 4
出席者　　9 人

報　告
1. 前回議事録を確認した。
2. スペイン語圏ラテンアメリカ人司牧者の集い（APALA）（9 月 29 日）について
3. 排除 ZERO キャンペーンが 12 月で終了する。今後まとめていく報告書は、信徒が手に取って読め、勉強会で使用できるような小冊子として準備することがカリタスジャパンと合同のキャンペーンワーキンググループで決定した。
4. ベトナム対応チーム関連報告
   妊娠したベトナム人技能実習生や留学生の妊娠出産に関する情報について、ベトナム語と日本語でまとめたリーフレットを『J-CaRM News』に同封して発送する。
5. 人身取引問題に取り組む部会（タリタクム日本）
   運営委員退任の申し出について確認し、受諾した。

審　議
1. 全国教区担当者・ネットワーク合同会議（10 月 8 日－9 日）のプログラムと流れ、役割分担を確認した。
2. タリタクム日本からの、2 月 8 日聖バキータの記念日の日本語訳変更提案を確認した。その他、教皇訪日に合わせて東京で開催予定という Nuns Healing Hearts 写真展について情報共有した。
3. 2020 年度事業計画案、第一次予算案を確認した。

■2019 年度全国教区担当者・ネットワーク合同会議

日　時　　2019 年 10 月 8 日（火）13:00－9 日（水）15：00
場　所　　日本カトリック会館　マレラホールほか
出席者　　46 人

内　容

1. 委員会の活動報告
   ・人身取引問題に取り組む部会（タリタクム日本）
   ・船員司牧（AOS）
   ・言語別司牧（中国人司牧、APALA、フィリピン人司牧、ベトナム人司牧）
   ・委員会の中期行動計画について
   ・アドボカシー・啓発プロジェクト（技能実習制度・入管収容問題を中心に）
   『外国人収容所の闇～クルドの人々は今～』（2019 年）映像　一部映写
2. 排除 ZERO キャンペーン小教区アンケート中間報告
3. 分科会　担当者（司牧的課題）小教区アンケート結果のまとめから見える課題、具体的な取り組みに向けて
   実務者（人権問題）技能実習・人身取引、難民の受け入れ、入管収容、非正規滞在の子どもの現状と、解決に向けてカトリック教会だからできること
4. 分科会報告
5. 管区別の話し合い（1）教区報告（外国人司牧・人権問題に関する指針、体制、取り組み、今後の課題）
6. 管区別の話し合い（2）2020 年度管区として取り組むこと、全国研修会・管区セミナーの計画
7. 全体会で各管区からの報告、担当者会議のあり方についての意見交換・提案
8. 派遣ミサ　説教の中で、2 日間の会議のまとめ

■第 5 回船員司牧（AOS）コア会議

日　時　　2019 年 10 月 31 日（木）11：00－16：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室 3
出席者　　8 人

報　告

1. 前回議事録を確認した。
2. 国際キリスト教海事協会（ICMA）世界会議（10 月 21 日－25 日）（台湾・高雄）
   内容とスケジュール、各プログラムの映像記録は、ICMA のサイト（https://icma.ac）に掲載。テーマに漁船が入った点が新しかった。国際的な視野を持ちつつ、日本で実践できることを見極めていく。
3. 全国教区担当者・ネットワーク合同会議（10 月 8 日－9 日）報告
   話し合われたテーマ、来年の全国研修会や管区セミナーの予定など、出席した加藤委員、井手委員と事務局で共有した。
4. 各教区・港からの報告

審　議

1. 2020 年度活動計画
   (1)AOS 100 周年（2020 年 10 月 4 日）にあたり、教皇庁からの活動提案を受けて意見交換を行った。日本では船員の日（2020 年 7 月 12 日）に焦点をあてて準備していく。
   (2)AOS 全国研修会（2020 年 9 月 21 日－22 日）の企画（東京開催予定）について協議した。日程中の半日、担当者会議を行う方向で準備する。
2. 12 月訪船時に船員たちに配布する AOS カレンダーを、今年も作成する確認をした。

3. 船員活動拠点一覧の掲載基準について確認した。
4. AOS 部会規約案を確認した。

■第 10 回事務局会議

日　時　　2019 年 11 月 6 日（水）9：15－11：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室 4
出席者　　9 人

報　告

1. 前回議事録を確認した。
2. タリタクム新運営委員推薦について
   定例委員会で条件付きで確認した後、明日の運営委員会で確定する。
3. Nuns Healing Hearts 写真展について
   会場は、三菱一号館美術館と行幸地下ギャラリー（東京・千代田区）で、オープニングにはタリタクム日本からも参加する。はがきサイズのパンフレットを作成して当日配布する。

審　議

1. 入管問題を緊急の課題として取り組んでいくことが､全国教区担当者･ネットワーク会議で決まった。長期収容に対してハンガーストライキが続く中、法務省は手立てがないと考え、速やかに送還を執行する法改正に向かう流れがある。収容・送還問題に対する法務省の専門部会ができ、これに対して弁護士団体や国際人権団体など様々な団体の共同行動が始まった。11 月 14 日の院内集会を共催するが、開催経費を今回分担することを承認した。
2. 午後の定例委員会の議題と進め方について確認した。

■第 4 回定例委員会

日　時　　2019 年 11 月 6 日（水）11：00－16：00
場　所　　日本カトリック会館　会議室 4
出席者　　18 人

報　告

1. アドボカシー・啓発プロジェクト報告（入管問題を中心に）
2. 東京・大阪・長崎管区からの報告
3. 前回議事録を確認した。
4. タリタクム日本より、10 周年記念集会・総会（イタリア・ローマ）参加報告があった。
   40 数か国から 86 人が参加し、10 年の活動を振り返った。人身取引の形態も多様化しており、カトリックの草の根のネットワークがより重要になっていく。
5. 船員司牧（AOS）報告
6. スペイン語圏ラテンアメリカ人司牧者の集い（APALA）（9 月 29 日）報告
7. ベトナム対応チーム関連報告
   妊娠した技能実習生や留学生への相談対応および支援について、また、ベトナム人実習生の死亡例が増加する中で遺族への補償・権利についての情報共有があった。

審　議

1. 全国教区担当者・ネットワーク合同会議（10 月 8 日－9 日）の振り返りと今後の予定について

2. 2020 年度事業計画案、予算案を承認した。
3. 船員司牧（AOS）部会規約案を承認した。

カリタスジャパン

■第 5 回啓発部会会議

日　時　　2019年10月1日（火）14：00－16：00
場　所　　日本カトリック会館　マレラホール
出席者　　12人

審　議

1. 啓発部会の中期戦略計画アクションプランについて
   中期戦略計画アクションプランの目標と活動内容の検討を行った。
2. 2020年度予算
   啓発部会の2020年度の予算案の詳細について確認した。

次回日程　　2019年12月10日（火）14:00－16:00　日本カトリック会館

■2019年度定例全国教区担当者会議

日　時　　2019年10月29日（火）－30日（水）
場　所　　カトリック新潟教区（新潟教区）　信徒会館2階ホール
出席者　　23人

10 月 29 日

1. 事務局、会議等新体制の報告
   事務局より､2019 年 4 月からの事務局体制の改訂､ならびに会議の持ち方の変更について報告を行った。
2. 募金状況の報告
   事務局より、意向別募金の推移（2006 年－現在）についての報告と台風 19 号募金についての報告を行った。台風 19 号災害ならびに、その後の大雨災害への対応について、当該教区より報告があった。
3. カリタスジャパン中期戦略計画
   事務局より、カリタスジャパン中期戦略計画について報告を行った。現在は、中期戦略計画に基づき、援助部会、啓発部会、事務局で具体的なアクションプランを作成中である。
4. リレー写真展振り返り
   2018 年 12 月名古屋教区を皮切りに、2019 年 10 月までに全 16 教区、40 都道府県、約 140 か所で、排除 ZERO キャンペーンリレー写真展を実施した。各教区での実施報告が行われた。
5. 四旬節キャンペーン
   事務局より、四旬節献金報告、大綱案について説明し、承認を得た。キャンペーン資料配布申し込み用紙は 11 月 29 日(金)までに事務局へ提出。四旬節キャンペーンについて意見交換を行った。
6. 事務局報告
   (1)排除 ZERO キャンペーンアンケート調査の状況について
   日本カトリック難民移住移動者委員会との共催で実施。回収率は 60%。現在、データ化して各教区にフィードバックできる形に整えている。
   (2)教皇訪日関係について

11 月 25 日の午前中の「東日本大震災の被災者との集い」を運営する。300 人程度（約半数が福島、宮城、岩手の被災者、約半数が支援者）の参加となる。同じく、11 月 25 日の「教皇と青年との集い」に、排除 ZERO キャンペーンの関係で、難民や移住者の青年の参加の準備をしている。

(3)新しい募金箱について

街頭募金などで使用可能な新しい募金箱の紹介を行った。

(4)遺贈募金について

事務局より、遺贈募金の問い合わせ対応について検討し、ちらしとパンフレットを作成した旨を報告した。遺贈募金を教区で集めている場合もあるので、カリタスジャパンからは各教区本部事務局に、ちらしならびにパンフレットを送付して案内するだけにとどめる。教区担当者には、別途ちらしとパンフレットを送付する。

(5)2020 年度定例全国教区担当者会議日程について

日時　2020 年 10 月 27 日(火)－28 日(水)

場所　日本カトリック会館　マレラホール

注）開催日時は 2020 年 10 月 20 日(火)－21 日(水)へ変更となった。

10 月 30 日

7. カリタスジャパン 50 周年企画について
8. 管区単位による教区担当者の集いについて

事務局より、カリタスジャパン 50 周年企画の経過説明を行い、7 と 8 について、管区ごとに話し合った。

9. 教区担当者実行委員会のあり方について

次年度より、現在の援助部会ならびに啓発部会委員 6 人が教区担当者実行委員となり、進めていくことが承認された。

正義と平和協議会

■事務局会議

日　時　　2019 年 11 月 12 日（火）10：00－16：00

場　所　　日本カトリック会館　会議室 5

出席者　　5 人

報　告

1. 現在取り組み中の企画の進捗状況について
2. 改憲対策部会

10 月 13 日予定のシンポジウム「韓国の人々と手をとりあうために」は台風のため、11 月 29 日に延期になった。

3. 死刑廃止を求める部会　　12 月 5 日に講演会「人間の裁きと神の赦し」を予定。
4. 平和のための脱核部会　　ニュースレター発行、パンフレット制作作業進捗状況
5. ピース 9 の会　　2020 年用年賀はがきに 65,000 枚の注文があった。
6. 社会司教委員会関係の報告
7. 会計報告

審　議

1. 国際パックスクリスティ世界大会

プログラムの確認と参加者について検討した。

2. 中期計画のためのワークショップ実施について
日程　2020年1月24日(金)夜－26日(日)午後
12月にファシリテーターと内容を検討する。
3. 2020年全国会議について
日程　2020年3月5日(木)－7日(土)
場所　YMCAアジア青少年センター
内容の検討を行い、準備スケジュールを確認した。
4. 来年度社会司教委員会出前研修の内容を検討した。
5. 大嘗祭への国費支出に抗議する声明を出すことを審議した。

日本キリスト教連合会（日キ連）

■2019 年度第 1 回常任委員会

日　時　　2019 年 6 月 27 日（木）14：00－15：20
場　所　　日本キリスト教会館会議室（東京・新宿区）
出席者　　7 人

報　告
1. 日本宗教連盟（日宗連）
本日、幹事会、評議委員会、続けて理事会が開催された。
現在の課題
・厚生年金の加入促進の取り組みについて、厚生労働省の担当官と協議中。近々、全宗教法人に業務形態についてアンケート調査が行われる予定。
・財務省を中心に、一般宗教法人と公益宗教法人とを分けて課税する動きがみられ、宗教界全体で取り組むことを確認している。
2. 東京都宗教連盟（都宗連）
・東京都との防災協議会を継続。
・東京オリンピックの宗教施設に教役者を派遣する交渉を宗教界が一緒に行う。
・宗教法人運営実務研究協議会が 11 月 22 日(金)または 29 日(金)に行われる。
日キ連に 7 人の参加枠がある。一人 3,000 円×7 人＝21,000 円
・2021 年と 2022 年の当番教団となっている。（カトリック中央協議会に打診する。）
・廣瀬委員と滝田委員が出席できないときは、道家委員を代務登録する。
3. 事務局
事務局対応
・2019 年総会が行われた。総議員数 70 人中 23 人の議員が参加し、27 人から委任状を得て開催した。
総会後、「講演会」が行われた。27 人が出席した。
講師　山川百合子さん　衆議院議員　立憲民主党
日本アッセンブリーズオブゴット教団　草加神召キリスト教会会員
・2019 年度総会資料を欠席加盟団体に送付した。

審　議
1. 定例講演会（9月30日）について
講師　　上中 栄師（日本ホーリネス教団）　　道家委員から詳細を連絡する。
日時　　9月30日(月)18：00－19：30

＊常任委員会を16：00－17：30　委員会後、講師と食事。

講演　　「天皇代替わりにあたって～大嘗祭を間近に控えて」（仮題）

2. 第44回法人実務・会計実務研修会について

日時・場所　10月23日(水)－25日(金)　富士箱根ランドスコーレプラザ

内容　　法人実務　会計実務

講師　　（道家委員）（事務局　松田正子）（長岡淳三税理士）

プログラム（自由時間などを含めて）

昨年と同じとするが、特別講演は「遺贈について」とし、矢木委員から長岡税理士に依頼して、共同で行う。

案内　　7月中に会報を同封。会費は30,000円とする。

3. 2019年度分担金請求について

総会で決議した通り払い込みの依頼書を出す。

次回日程　　2019年度第2回常任委員会　2019年9月30日（月）14：00－17：30

日本キリスト教会館（東京・新宿）

子どもと女性の権利擁護のためのデスク

■事務局会議

日　時　　2019 年 11 月 7 日（木）15：00－17：00

場　所　　日本カトリック会館　会議室 5

出席者　　4 人

報　告

大分教区の相談窓口設置準備のため、11 月 5 日－6 日に大分教区事務局との打ち合わせを行い、窓口担当者への研修を実施した。

審　議

1. 日本の教会における未成年者への性虐待に関する調査について

調査の進捗状況、公表案について審議した。

2. 中期計画（2019 年－2022 年）について

2022 年までの中期計画について審議した。詳細は継続審議となった。

3. 2020 年度の計画について

①社会司教委員会主催の出前研修会のデスクが提供するメニューについて意見交換を行った。

②3 月 13 日(金)の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」について確認を行った。リーフレットならびにミサの朗読箇所については継続審議となった。

③11 月 27 日－28 日の「全国教区担当者の集い」については継続審議となった。

4. 今後の事務局会議日程

2019 年	12 月　4 日（水）	9:30－13:00	日本カトリック会館
2020 年	1 月　8 日（水）	13:30－16:00	日本カトリック会館
	2 月　6 日（木）	15:00－17:30	日本カトリック会館
	3 月 24 日（火）	9:30－13:00	日本カトリック会館
	4 月　2 日（木）	15:00－17:30	日本カトリック会館
	5 月 14 日（木）	15:00－17:30	日本カトリック会館

中央協議会事務局

■総務

1月会議予定

8日(水)	子どもと女性の権利擁護のためのデスク事務局会議	日本カトリック会館
8日(水)	社会司教委員会事務局会議	〃
9日(木)	常任司教委員会	〃
9日(木)	難民移住移動者委員会事務局会議	〃
10日(金)	部落差別人権委員会事務局会議	〃
14日(火)	カリタスジャパン援助審査会	〃
17日(金)	タリタクム日本運営委員会	〃
20日(月)	典礼委員会定例会議	〃
23日(木)	子どもと女性の権利擁護のためのデスク定例会議	〃

<会報2020年1月号　公文書>

「政教分離」憲法原則の徹底を求める声明

Prot.No SC-JP19-27

2019年11月18日

内閣総理大臣　安倍晋三 様

日本カトリック正義と平和協議会

会長　勝谷　太治

「政教分離」憲法原則の徹底を求める声明

先ごろ挙行された「即位礼正殿の儀」「大嘗祭」等、天皇代替わりにかかわる皇室祭祀に国が関与し、公金を支出したことに遺憾の意を表します。

日本カトリック司教協議会は、今回の天皇代替わりに関連して、すでに2018 年2月22日に内閣総理大臣宛て「天皇の退位と即位に際しての政教分離に関する要望書」を発表し、「天皇の退位と即位に関する一連の行事にあたって、日本国憲法が定める政教分離原則を厳守し、国事行為と皇室の私的宗教行事である皇室祭祀の区別を明確にすること」を求めました。

ところが政府は、「平成の御代替わりに伴い行われた式典は、現行憲法下において十分な検討が行われた上で挙行されたものであることから、今回の各式典についても、基本的な考え方や内容は踏襲されるべきものである」(2018年4月3日閣議決定) として公費を支出し、三権の長など国家機関の枢要なメンバーも出席させました。

「天皇代替わり」儀式の一部は、天照大神の神勅に由来する神道儀式に即して挙行されました。とりわけ「大嘗祭」は、神道儀式を経て即位した天皇が神格化される儀式として、宗教性を濃厚に帯びていることは政府も認めています（1989 年 12 月 21 日閣議口頭了解）。また天皇が高い位置から即位を宣言することに「国民」を代表する首相らが下から応える儀式である「即位礼正殿の儀」も「国民主権」原則との齟齬が懸念されます。

本来皇室の私的な宗教祭祀であるさまざまな儀式、とりわけ戦前の日本で、神権的天皇像を国民に知らしめるための儀式であった「大嘗祭」に公金を支出し国が関与することが、日本国憲法の政教分離原則にそぐわないのは明白です。

「政教分離」の本来の意味と役割は、個人の宗教的良心が、国家権力などの外的力によって恣意的に束縛、拘束されないように守ることです。私たちは「大嘗祭」などの天皇代替わり行事に公金を支出し国が関与することが、ひいては戦前の日本社会のように特殊な民族主義、国家主義や軍国主義、さらに差別やヘイトをもたらす不寛容を社会に波及させ、人間の尊厳と人権、自由と多様性、とりわけ宗教的自由が脅かされることにつながりかねないことを危惧します。

カトリック教会は、かつて日本という国が国家と宗教と武力を一体化し、本国のみならず、特にアジアの人々の生存と基本的人権、平和を侵害したこと、またカトリック教会自身も国家神道による天皇の神格化と皇国史観に基づく全体主義に屈服し、日本の軍国化と戦争遂行に協力したことを反省します。そこから私たちは、究極的にはイエス・キリストの愛といつくしみにおいて全人類の一致と交わりが達成されるとの信仰に基づきながら、国の最高法規である日本国憲法が掲げる「政教分離、主権在民、戦争放棄」の基本原則を日本政府が厳守し、それをもって世界平和に貢献することを望んでいます。

教皇フランシスコの訪日を終えて 会長談話

教皇フランシスコの訪日を終えて
司教協議会会長談話

日本の教会の皆様

教皇フランシスコは去る 11 月 23 日から 26 日まで日本に滞在され、東京、長崎、広島の各地でさまざまな人々と出会い、いくつもの重要なメッセージを述べ、ミサを主司式して説教を行われました。

まずは神様のおはからいとお恵みを感謝し、教皇様にこころより感謝を申し上げたいと思います。

この訪日が実現するためには、教皇様ご自身が望まれたのはもちろんのこと、教皇庁国務省、とくに典礼、広報、セキュリティー担当、教皇庁大使館、日本政府、とくに外務省、日本の司教協議会、とくに教皇訪日準備特別司教委員会、司祭・男女修道者・信徒の方々がそれぞれの役割を果たしながら緊密な連携のうちに準備を重ね、ご訪問中も誠心誠意努めてくださいました。それでも不行き届きな点が多々あり、ご迷惑をおかけしたかと思います。教皇様に免じておゆるしくださいますようお願いいたします。

長崎の爆心地公園と西坂では雨の中参加し、県営野球場ビッグＮでは青空のもとでミサに参加した方々、広島の平和記念公園では平和のための集いに参加した方々、とくに諸宗教と被爆者の代表の方々、東京の会場では東日本大震災被災者の代表の方々、東京カテドラル聖マリア大聖堂では青年たち、東京ドームではミサに参加した大勢のひとたち、そして延べ 1 万人におよぶボランティアの皆さんにも篤く御礼を申し上げま

す。国内外のメディアの方々、さらには長崎、広島、東京の沿道で実にたくさんの方たちが教皇様を歓迎してくださいました。皆様にこころより篤く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

教皇様の存在そのものが、キリスト信者であるなしにかかわらず多くの人々のこころを動かしたのではないかと思います。しかも核兵器廃絶に向けたメッセージ、信仰者、被災者、若者に向けて貴重なメッセージをくださいました。

今後、「すべてのいのちを守るため」というテーマで行われた教皇訪日の意義を省察し、各地で発せられた数々のことばを読み解いて分かち合い、日本の教会共同体と社会の中で実りをもたらすために具体的に何をどうすればよいのかを、祈りのうちに決定していきたいと考えています。皆様方からも今後に向けてのご意見やヒントなどをお寄せいただければ助かります。

なお、皆様がそれぞれの教区などで今後に向けて取り組んでいただければ幸いです。

皆様方の上に聖霊の恵みと主の祝福をお祈りいたします。

2019 年 12 月 3 日　聖フランシスコ・ザビエルの祝日

日本カトリック司教協議会　会長
カトリック長崎大司教　　ヨセフ髙見　三明

教皇フランシスコの訪日を終えて 会長談話 英語版

Statement of the President of the Catholic Bishops' Conference of Japan Upon the Visit of Pope Francis to Japan

December 3, 2019

To the Catholics of Japan

Pope Francis visited Japan from November 23 to 26, meeting various people in Tokyo, Nagasaki, and Hiroshima. He shared several important messages and preached as the principal celebrant at Masses.

I want to thank God for this blessing and to thank Pope Francis from the bottom of my heart.

Making the pope's desire to visit Japan a reality took the cooperation and effort of many people and organizations. The heartfelt involvement of the Holy See's Secretariat of State and offices of liturgy, social communications and security; the Apostolic Nunciature to Japan; the Ministry of Foreign Affairs of Japan; the Catholic Bishops' Conference of Japan, especially the Special Bishops' Committee for Preparing the Papal Visit to Japan; priests; male and female religious and laity all played an important role. They all worked hard to coordinate their activities to ensure that all went well. Even so, there were probably things that did not go as well as planned and may have caused inconvenience to various people. I ask Pope Francis and

you for your understanding and forgiveness for any inadequacies.

I want to express my gratitude to the many people who endured the rain at Nagasaki's Hypocenter Park and Nishizaka or joined in the Mass under the blue sky at the Big N prefectural baseball stadium, the representatives of various religions and Hibakusha and others who participated in the gathering for peace at the Hiroshima Peace Memorial Park, the representatives of the Great East Japan Earthquake disaster victims who travelled to Tokyo, the young people at Tokyo's St. Mary's Cathedral, the many people who joined in the Mass at the Tokyo Dome and the ten thousand volunteers who helped make the pope's visit a success. In addition to media from Japan and abroad, many people welcomed the Pope along the streets of Nagasaki, Hiroshima, and Tokyo. I am grateful to all of you. Thank you very much.

I think that Pope Francis moved the hearts of many people, regardless of whether they are Christians or not. He called for the abolition of nuclear weapons, and gave valuable messages for believers, disaster victims, and young people.

From now on, I hope we will reflect on the significance of Pope Francis' visit to Japan and its theme of Protect All Life. Let us read his messages and share our thoughts about them. And let us pray for guidance in deciding what to do so that they bear fruit in Japan's Church and society. Please share with us bishops your comments and ideas for the future.

Let us work toward the future in each of our dioceses and communities.

May the grace of the Holy Spirit and the blessings of the Lord be upon us all.

+Joseph Mitsuaki Takami, Archbishop of Nagasaki
President, Catholic Bishops' Conference of Japan

カトリック中央協議会　「 会報 」　2020 年 1 月号　（通巻 575 号）
発行日　2019 年 12 月 20 日
発行　　宗教法人カトリック中央協議会　　https://www.cbcj.catholic.jp
〒135-8585　東京都江東区潮見 2-10-10　電話 03-5632-4411　Fax 03-5632-4457